

# 捕獲等事業評価シート

(京都府 農村振興課)

## 評価シート（ニホンジカ）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

### ■ 事業概要

事業実施地域	京都府福知山市大江町東部及び福知山市印内・綾部市小畑町区域
事業主体	京都府農林水産部農村振興課
事業実施期間	令和7年11月6日～令和7年11月26日
捕獲手法	くくりわな、銃猟（巻き狩り）
事業メニュー	②捕獲等メニュー及び③広域連携タイプ
事業費	11,033,000円

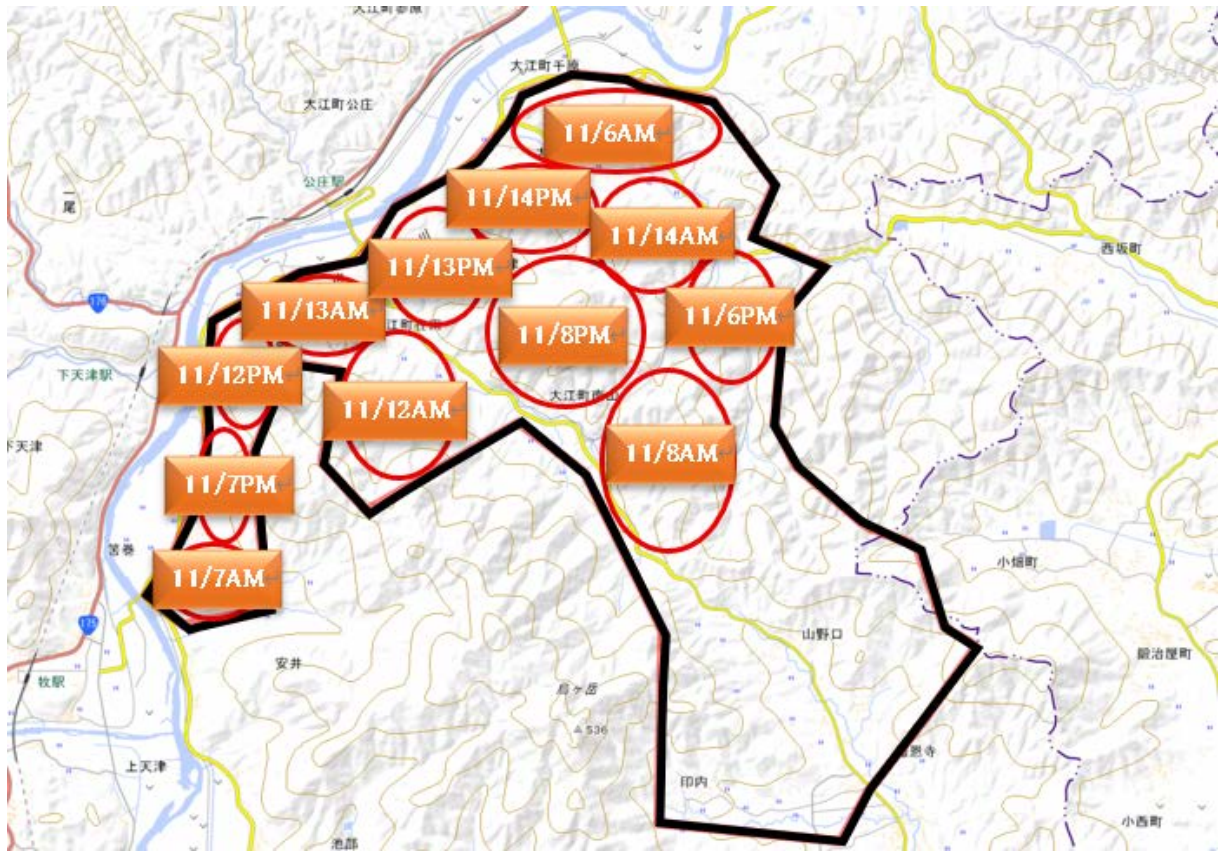
(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

### ■ 事業の評価

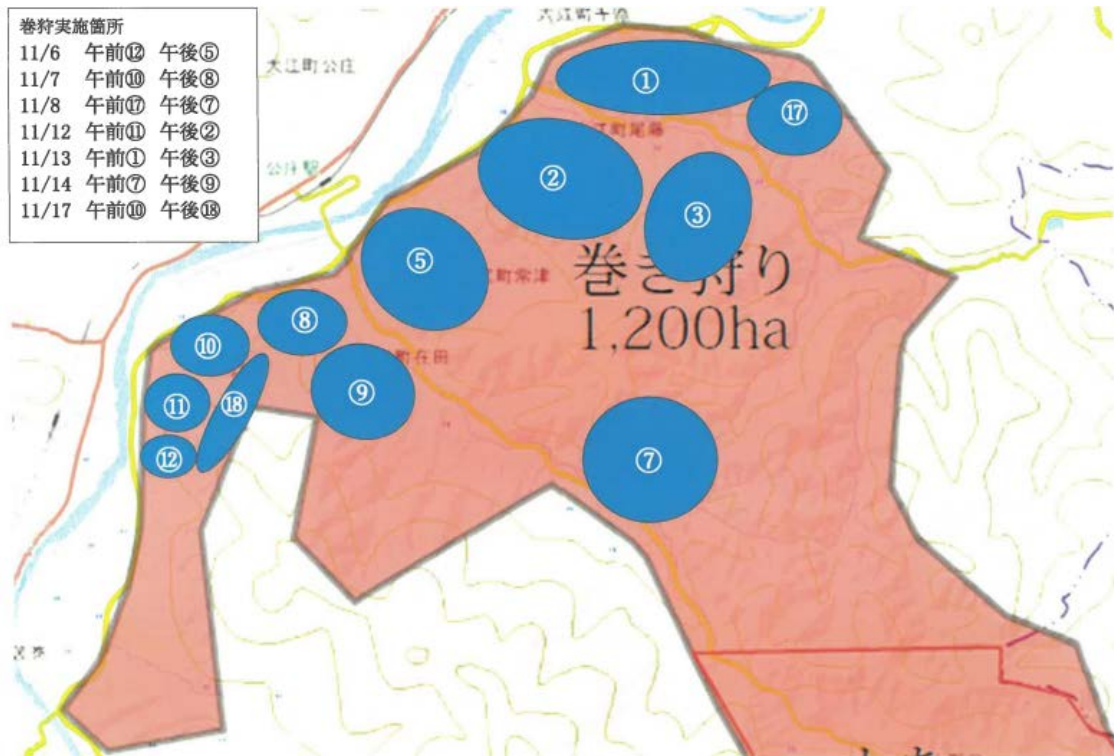
評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	くくりわな：40頭 銃猟（巻き狩り）：80頭  合計120頭	くくりわな：3頭 銃猟（巻き狩り）：39頭  合計42頭	捕獲目標の達成率は35%であった。目標が達成できなかった理由として、市が実施した有害捕獲事業との調整が整わず、実施箇所を見直すなど、予定通り捕獲できなかったことによる。
捕獲作業量	くくりわな：240台日 銃猟（巻き狩り）：119人日	くくりわな：240台日 銃猟（巻き狩り）：124人日	計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな：0.17頭/台日 銃猟（巻き狩り）：0.67頭/人日	くくりわな：0.013頭/台日 銃猟（巻き狩り）：0.31頭/人日	くくりわなの捕獲効率が予定よりも低かった。理由は周辺での有害捕獲事業との調整により当初予定の設置箇所、時期等に変更が生じたため。
事業に要した人員数	143人日	162人日	予定以上の人員数を投じて作業を実施した。従事者1人当たりの捕獲数は0.259頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがないよう林内に埋設	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾を使用	・非鉛製銃弾を使用	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性		・オス14頭、メス28頭 ・すべて成獣	2年間の捕獲目標140頭達成に向け、令和8年度の捕獲強化を図る。

■ 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）

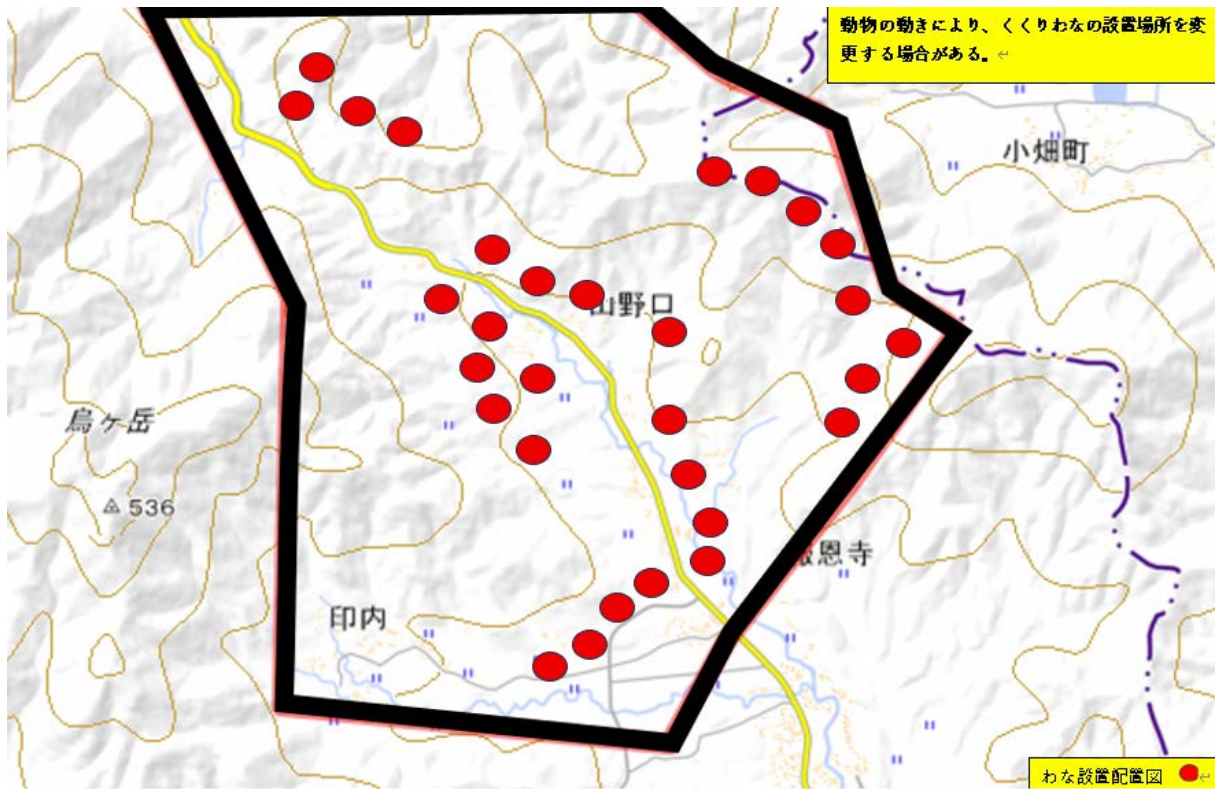
1-1 銃猟（巻き狩り）の捕獲位置等に関する図面（実施計画図面）



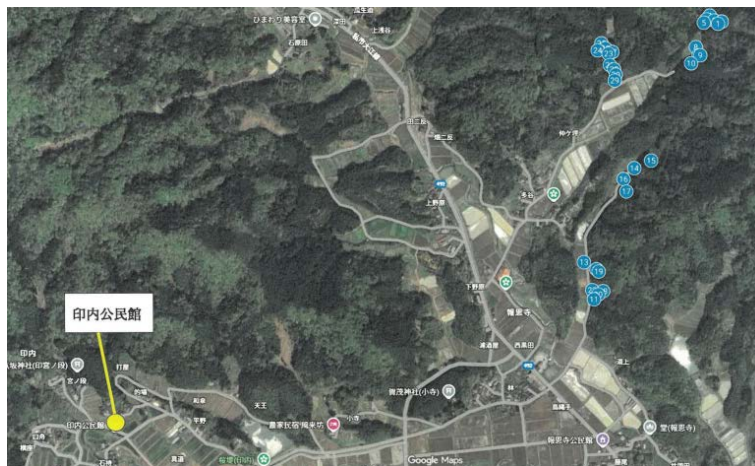
1-2 銃猟（巻き狩り）の捕獲位置等に関する図面（実績図面）



2-1 くくりわなの捕獲位置等に関する図面（実施計画図面）



2-1 くくりわなの捕獲位置等に関する図面（実績図面）



**STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。**

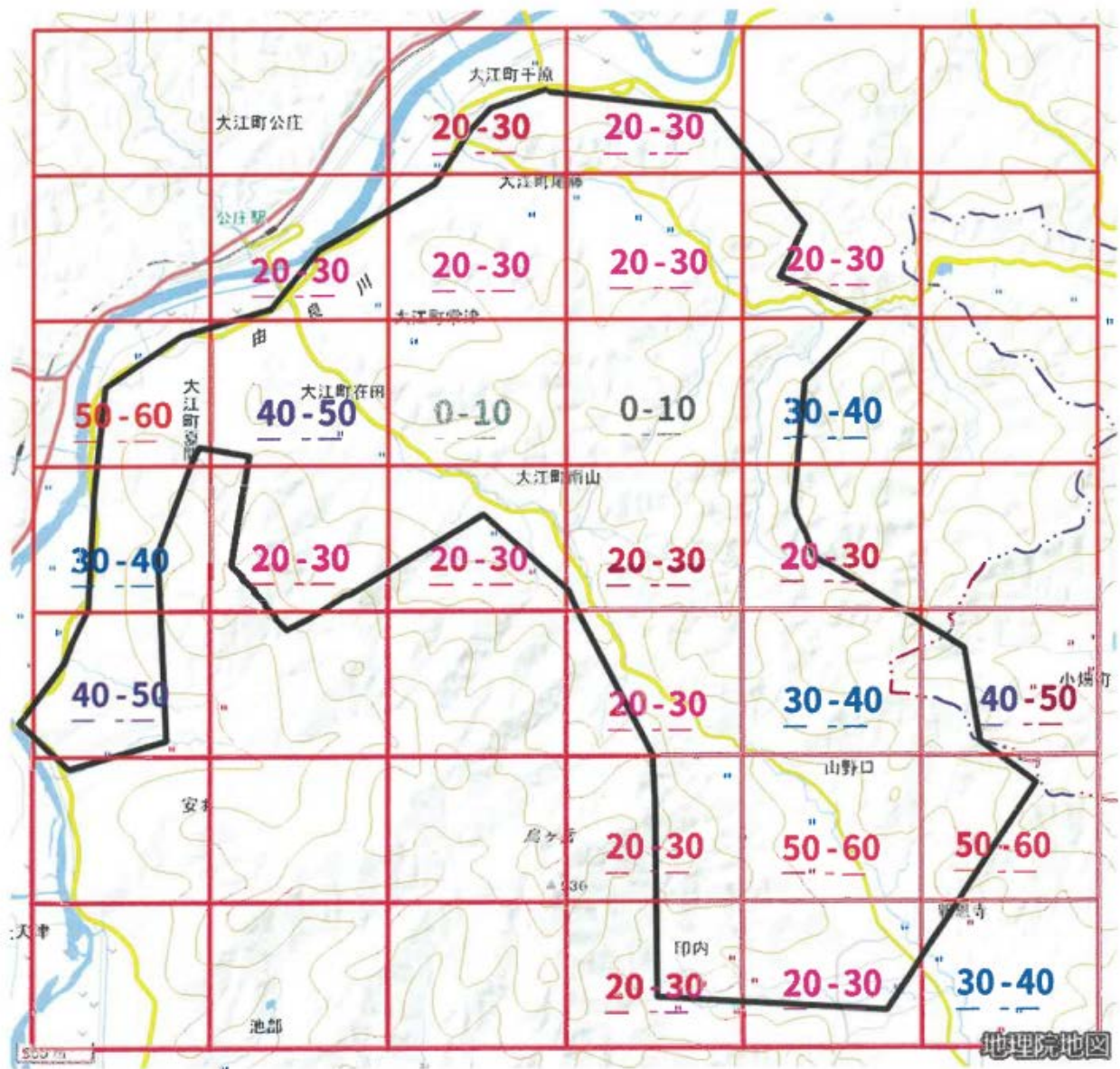
■ 事業実施地域

京都府福知山市大江町東部及び福知山市印内・綾部市小畑町区域

■ 生息状況

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 赤外線カメラを搭載したドローンによる調査を実施（2025年9月）</li><li>・ 推定生息密度 0～60頭/km<sup>2</sup></li><li>・ 高密度 50頭/km<sup>2</sup>（南東部、西部）</li><li>・ 低密度 0～10頭/km<sup>2</sup>（中央部）</li></ul>
事業実施後	2カ年計画の1年目であり、事業実施後の調査は実施していない。 令和8年度の事業実施後に実施予定
評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 区域内には幼獣とみられる小型個体が複数確認され、継続的な繁殖が推察される。</li><li>・ 標高600m以下のメッシュが主な生息地であることが確認され、低地のエサ資源量に依存していると考えられる。</li></ul>

■ 添付図面



**STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。**

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載)

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標設定】	評価：銃捕獲、わな捕獲のいずれも目標達成率は低調であった。
	改善点：目標値を捕獲頭数に限定するのではなく、捕獲場所や捕獲時期に応じた被害程度を指標として組入れることを検討する必要がある。
【実施期間】	評価：銃捕獲は7回、わな捕獲は8日間であった。
	改善点：設定された実施日数の期間で捕獲目標を達成するためには、より多くの捕獲努力量か、実施日数の延長が必要であった。
【実施位置】	評価：銃捕獲については、現地事前調査及び夜間ドローン調査により、より効果的な捕獲位置を選定できた。
	改善点：わな捕獲については、より効果的な箇所への設置を検討する必要がある。
【捕獲手法】	評価：銃捕獲については、巻狩りが採用されており、同一場所での反復捕獲がそもそも難しい中、ドローンの活用で捕獲効率を高めるよう努めており、実施日数設定の最適化ができた。また、わな捕獲においては、ヘイキューブを用いた誘引による捕獲効率向上に努めた。
	改善点：次期捕獲では事前誘引を積極的に採用するよう仕様書や作業記録票の改訂を行う必要がある。
【捕獲コスト】	評価：予定していた人員や作業量を達成したが、約 260,000 円/頭のコストがかかった。
	改善点：より効率化し、捕獲努力量を増加させる必要がある。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：事前調査と捕獲事業を別発注とした。
	改善点：特に問題点はない。
【個体処分】	評価：捕獲個体は法令に従い、埋設、もしくは焼却施設搬入など適正に処理した。
	改善点：特に問題点はない。
【環境配慮】	評価：わなの止めさしはすべて電殺器で実施し、銃は使用していない。
	改善点：特に問題点はない。
【安全管理】	評価：事前周知として、捕獲場所の周囲に注意喚起の看板を設置した。
	改善点：特に問題点はない。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 捕獲事業受託者において、指定の記録様式に従い、適切に業務の報告がなされた。	
4. 全体評価 計画（目標設定、実施区域等）は適切であったと考えるが、実績としては十分とは言えないと考える。限られた期間に十分に密度を下げるため、わな捕獲における努力量確保とプロセス改善が求められる。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣管理計画の目標	令和7年度の府全域の捕獲目標数 26,000 頭（メス 15,000 頭、オス 11,000 頭）
寄与状況の評価	目標に対し本事業の捕獲頭数が占める割合は約 0.2%と著しく低い。